



ふるコンだより

発行責任者
宇部市ふるさとコンパニオンの会
会長 脇 彌生

令和 2 年、ほのぼのとした空気を切り裂く事象がおこりました。新型コロナウイルス拡散防止のため、全国のイベントの中止が相次ぎました。「ふるコン」の活動も例外ではありません。春から初夏への活動は一部を除いて軒並み中止でした。まだまだ安心はできないので、注意が必要です。ふるコンとしては、屋外のガイドを中心に、マスク必須、消毒、そして参加定員を縮小して、皆さんと有意義な時を共有したいと思います。これまでのこんなことや、これからのいろんなことを紹介します。

てくてくまち歩き「西岐波の氏神様・南方八幡宮と太古から栄えた山村の丘陵地帯を歩こう！」
4/4

参加者 20 人は 2 班に分かれて南方八幡宮を出発し、最初に山村公会堂そばのお地藏様の後ろの師井の生墓（5 個の半球状の墳墓）を見学しました。

墓の下宝物を盗もうとした泥棒が忽ち命を失ったため、師井の霊は生きていと伝えられています。次に昭和 38(1963)年に発見された長柵遺跡(旧石器時代から縄文時代の複合遺跡)に行き、地元の方からそこで発掘された石器を見せていただき、当時の話を伺いました。



南方八幡宮

沢波川のほとりを満開の桜を見ながら歩き、最後に四十段と呼ばれる石段をのぼり天勝宝 3(751)年厚東武綱が宇佐八幡宮から勧請したといわれている南方八幡宮に戻りました。

周防の八幡宮特有の楼門造りの社殿を見上げ、歴史のお話に耳を傾けながら、灯籠や鐘楼もじっくり鑑賞することができました。(池田)

琴芝駅今昔

宇部市の中心エリアには色鮮やかな鯉が優雅に泳ぐ塩田

川に並行して宇部線が走っています。その宇部線は大正 3 年に山陽本線の宇部から宇部新川まで開通したのが始まりです。

その後、床波・阿知須と延びていき大正 14 年には小郡（今の新山口）まで延び今の宇部線が完成しました。しかし、その頃はまだ琴芝駅は存在していませんでした。やがて石炭産業で発展を続ける宇部市の中心エリアに住宅や商店、官公庁なども増えたため昭和 4 年、宇部新川と東新川の間に新たに琴芝駅が誕生しました。



旧琴芝駅舎

琴芝駅は商店街に面する立地のため買物客に利用しやすく、快速電車も停車し、新幹線の切符が買える「みどりの窓口」を備えるなど中心市街地の駅として賑やかな時代を過ごします。

しかし時代の流れとともに人の動きも変わり、今では通学利用が中心のひっそりとした無人駅となっています。



現琴芝駅舎

そして築 70 年を超えた駅舎は老朽化のため今年の夏に解体され待合室だけのコンパクトな駅舎に変わりました。また、駅周辺の建物も老朽化した建物が多く、

再開発によって雰囲気も変わっていくことでしょう。(志馬)

てくてくまち歩き「歴史を秘めた神原公園の今昔、桃色レンガの小径を歩いて梶返天満宮にお参りしませんか」
9/26

秋晴れに、定員 20 名が揃いました。県外よりも身近なまちを。そんな要望が高まっています。

さて、今回は JR 琴芝駅に集合し神原公園から梶返の住宅地をてくてく歩きます。菅原道真が太宰府に行かれる際に船をつけられ、手をお洗いになったという泉も残っています。それから 1000 年余り。世は江戸から明治、大正、昭和へと変わります。

そのころの神原公園は今よりずっと広く、JR 宇部線の所まであり、御大典の奉祝式が行われ市民数千人が集まったと新聞は報じています。同じ頃、福原越後公の銅像が現在の産業道路を背に建っていました。今はその辺りに「かみはら公園」の碑があるばかり。



梶返の桃色レンガ塀

宇部には何もない、という人もいます。でも、よ〜く見てみてください。公園の中や街中、至る所に歴史の欠片が残っています。(遠藤)

てくてくまち歩き「この辺りにも鶴がいたんだって」

10/24

10月24日(土)少しひんやりとした秋晴れの中、21名の参加者の皆さんと中山バス停近くの、昔は鶴の群れが飛来していたという大鳥羽神社から「てくてくまち歩き」をスタートしました。

神社の看板を見ることはあるが、神社まで行ったことがないという方がほとんどでしたが、階段を上りつめると清浄な空気を感じていただけたのではないのでしょうか。

中山地区北側の山道を登ると白岩公園があります。白岩公園は、上中山に住んでおられた笠井良介氏が昭和3年の御大典記念に自分の持ち山に信仰の山、憩いの場として造営したものです。公園の中心にある「大自然」(渡邊祐策翁揮毫)と深く刻まれた高さ4mもある巨石(通称八丁岩)に圧倒されました。



八丁岩

造営された当初から一般人の立ち入りが可能だったため、昔遠足で来たとき懐かしがられる方もいらっしやいました。戦前は、「東の常盤公園、西の白岩公園」と言われ賑わっていたのですが、駐車場が無かったため遠のいていき、ジャングル同然に荒れていました。近年は、霜降会の方々が毎週1回草刈りや紅葉の植栽を続け、かつての姿を取り戻しています。その様子が先日の「情報維新!やまぐち」で放送されました。

さらに山道を八十八か所のお大師さまの横を通りながら廣福寺(中山観音)まで行きましたが、腰曲がり観音として有名なご本尊様の20年に一度のご開帳まであと15年。「観音様を拝むことができるといいなあ」と思いをせました。(伊藤)

てくてくまち歩き「ドウダンツツジの紅葉狩り」

11/21

木立を抜けて視界の広がった上池、下池から奇岩を見つ、気持ちも新たに出発しました。

いきなりの急勾配を登り切ると、そこにはドウダンツツジの並木道の出迎えです。中山・廣福寺前住職の話では、戦後、霜降山で宝探しが流行った頃、大火が発生しました。その復旧事業として植樹が進められた際、300mに亘って200本のドウダンツツジが植えられたとの事です。さて肝心の紅葉ですが、私見ではアントシアニンが十分ではなかったのかなという感じです。

小春日和の中、尾根伝いに和気あいあいと足を進め、観音岳展望岩へ向かう。足場の悪い回り道でしたが、展望岩からの眺望は素晴らしく、まさに筆舌に尽くしがたしの思いです。ベストチョイスだったと自負しています。



鳥越広場で休憩後、男山分岐点を目指すも、ここの登りは思ったよりハードでした。

コロナ禍の世相の中、大自然の恵みを肌で感じつつ、ストレス解消にも一役買った「てくてく」だったと思います。(白石)

知っちよる? 宇部のこんな話

今回は「宇部中央銀天街」のお話です。それぞれ年代によって思い出、思い入れがまちまちだと思います。銀天街はどのように形成されたのでしょうか。戦前から商店は点在していたようですが、空襲に遭うこともなく、戦後の闇市がやがて整理され、商店街の体をなすようになったようです。道幅が狭いのは、区画整理がなされていないせいかもしれません。

銀天街は中央町2丁目と3丁目にまたがるアーケード商店街ですが、昭和20年代は北町1~3丁目と三炭町で形成され、商店街として確立したのは、昭和30年以

降で、初期のアーケードが完成したのは、昭和33年頃だということです。床のアスファルトからカラータイルへの移行は昭和38年に遡ります。

■銀天街と新天町の違い?

新天町は戦後の復興事業で常盤通りと共に大幅な区画整理により整備された商店街です。戦前は岬通り、錦町通りから錦橋商店街、万来町へ続く通りをボンネットバスが往来していた東のメインストリートだったそうです。対して銀天街は、戦後自然発生的にできた商店街で、その後協同組合を設立し、アーケード商店街となり発展していきました。

■多核一モール形式

宇部中央銀天街には核となる大型店舗を結ぶショッピングモールを形成していました。駅前大和、中央(セントラル)大和、丸久(ダイエー、レッツ09)を結ぶアーケード商店街が賑わいを見せていました。

このように中核の大規模店が充実していたこともあり、西側の市民は、三炭町から銀天街へ、遠方の方、市外の方は宇部新川駅から、東側の市民は、新天町から真締川を渡り、新町商店街からダイエー、銀天街へと、歩くことを苦にしない昭和の市民には魅力的な商店街だったと言えるでしょう。

また、映画館も三炭町の裏に「西東映」、銀天街の東端に「新東宝」、「日活」、松島町に「銀映」、錦町に「松竹」と、絶妙な配置だったと思います。



児童公園から東側を見た画像

左側に見える「小郡商事」が後の中央(セントラル)大和のアーケード側の入口となりました。この店舗を解いて、道路側入口横に店舗を移して、アーケード側エン

トランスを整備しました。

■これからの銀天街？

ふるコンの「てくてくまち歩き」のプログラムとして考えると、どのような切り口ができるだろうと考えます。「あの時は、こんな店舗があった」とか、「あれもあった、こんなこともあった」と、ふるコンガイドと皆さんと思い出話を出し合っ、懐かしむことから始めて、何かが見つかるとうれしいです。



昔の面影はありませんが

中央銀天街は空襲にあつていないので、戦前の地図と町並が変わっていないのです。街歩きには楽しい立地なので、「てくてくまち歩き」の企画をつめていきたいと思ひます。(西山)

〜一枚の絵葉書から〜

大正 11 (1922) 年 8 月に真締川下流に架けられた錦橋の親柱は珍しい 2 対のライオン座像でした。制作したのは、米野友吉(よねのともきち)。石工仲間では、「こめともさん」と呼ばれていたとか。

石工・米野友吉は、ライオンを 5 体彫ったと 20 年近く前にご子息から伺ったことがあります。あとの一つは、大正 10 年 11 月 1 日の宇部市制記念碑で、現在、中津瀬神社の新年町側の鳥居のそばにあります。



一枚の絵葉書(旧錦橋)

錦橋が昭和 35 (1960) 年に新しく架け替えになった際、このライオン像は、口元が「あ・

うん」の形態をしていたこともあったので、橋の上の飾りから新年町の中津瀬神社と上町の松濤神社(昭和 33 年創建)に狛犬として迎えられました。神社を守る狛犬へと出世したのです。

明治後期から昭和にかけて活躍された名工・米野友吉の作品は、宇部市内のあちこちで見ることができます。道重信教上人、渡邊祐策翁の関係する仕事も数多くしておられます。

主な作品を以下に記します。

・明治 39 (1906) 年、野中にある大学院の門柱の左右に昇り竜の浮彫。

・大正 11 (1922) 年 7 月 16 日建立の「植木林平君顕彰碑」岬の干しエビの生みの親です。撰弁書は、道重信教上人(松月院住職で、東京品川の徳川家菩提寺・増上寺法主となられた高僧)。

・大正 12 (1923) 年 5 月 1 日、「蒸枳記念碑」宇部鉱業組合が建立、揮毫は渡邊祐策翁。石炭記念館の裏にあり、居能の船大工・和田喜之介が考案した蒸枳(採炭時の防水枳)が、宇部炭田の開発に果たした貢献を伝え考案者の功績を讃える記念碑。

・昭和 3 年建立「致誠」…元は東見初炭鉱の山神社にあつたもので、現在は牛岩神社にあります。

・昭和 4 年 3 月完成の神原公園橋梁…かつては、JR 宇部線の所までが神原公園で、現在も神原保育園傍らに現存。

・昭和 5 (1930) 年建立、宇部護国神社の旧社地の灯籠…温故社(福原家とその家臣との親睦組織)解散に際して、組織記念。

・昭和 8 年、「大自然」…白岩公園にある最も大きな石に刻まれた一字の大きさは 3 尺四方(約 91 cm)があり、約 40 日の日数を費やし心血を注がれたそうです。

・昭和 12 (1937) 年 8 月、中津瀬神社灯籠…境内改築発起会、宇部商工会、竹内鉄工所終業記念により建立。

※市内在住の山下昇氏は、石造物を、くまなく調査されており参考にさせていただきました。(脇)

古地図を片手にまちを歩こう「小串村」

山口県では、江戸時代に作製された美しい古地図が豊富に残されており、これらの古地図を眺めながら散策することができます。おいでませ山口観光キャンペーン推進協議会では、古地図を使ったガイドウォークの取組を進めており、平成 29 年度からスタンプラリーを実施しています。今年度は 10 月 1 日〜3 月 31 日、新規 6 コースを含む 34 コースで開催していますが、宇部市でも、小串村を加え、10 月 11 日(日)、11 月 8 日、12 月 6 日(日)の 9:20~12:40、JR 宇部新川駅前発着、距離 6.5 km、定員 20 名で 2 グループに分けて実施しました。



1605 年頃作成の慶長国絵図を見ると、岬から居能まで長さ約 4.5 km、幅が平均 250m の細長い砂嘴(さし)があり、その内側は入海(いりうみ)となっていました。今では想像しにくいですが、宇部市役所、常盤通りが砂嘴の上に位置していることとなります。



慶長国絵図の一部分(宇部市蔵)

入海には三つの島(嶋、黄幡、鶺鴒ノ島)がありましたが、今回の歩くコースは、最初に嶋村(島)に向かうと突き当りが沖ノ山炭鉱創始者で「宇部の神様」と呼ばれた渡邊祐策翁の生家です。

初代宇部市長・国吉亮之輔氏の家も近くにありましたが近年随分と様変わりし新築の家が増えました。

小串村では石炭が産物として地下上申（享保 19 年：1734 年作成）に書かれており、今回使用する古地図は、この地下上申の付図である絵図を使っています。長州藩には、550 余りの地下上申絵図が残存しており、それらをジグソーパズルのようにつなぎ合わせる事ができ、今回のために宇部村・小串村・藤曲村の各部分をつなぎ合わせた古地図を手に大バン（黄幡）に向かいます。現在は桜の美しい公園として有名ですが、牛馬の神と鵜ノ島開作の守護神を祀る黄幡神社があります。

黄幡の付近に、内唐戸、外唐戸という地名があります。「黄幡の北の麓を流れる溝の以北を内唐戸といい、以南を外唐戸というが、これより西はまだ海であったため、潮の侵入を防ぐために川口に閘門（＝カラト）を設けてあったものと見える」と宇部郷土史話に書いてあります。

宗隣寺は、宇部の領主となった福原広俊が父元俊（法名・宝嶺宗隣居士）の菩提を弔うために再建した禅宗のお寺です。元々この地にあった普濟寺時代に厚東氏が築庭した県内最古の庭園があり、潮の干満を表す「干潟様」という全国で二ヶ所しかない様式があり国の名勝庭園に指定されています。

小串と下条には、お地藏様がまつってありますが、今回の事前調査で、上田純二会員が意

外なことを発見しました。それは、建立日時が同じで「享保八年卯辛四月廿四日」と刻まれていたこと。当時疫病でも流行っていて、それを封じるために建てられたものかもしれません。また十干十二支であれば辛卯（かのとう）であるはずなのですが、何故か二体とも反対に刻まれています…。（享保八年：1723 年）

鵜ノ島開作は、元禄 6（1693）年、福原家当職椋梨権左衛門俊平が責任者となり干拓工事を行ったものです。コメダ珈琲店西側の道が堤防跡で、湿地帯であった鵜ノ島地域の排水のため砂丘を掘って栄川（切通川）を造り唐樋を設け潮の流入を防ぎました。宮地嶽神社の麓には船溜まりの石垣が残っています。

大正 3（1914）年に開通した宇部軽便鉄道（のちの宇部鉄道）の線路跡は、少し高い位置にありますが、かつて砂の丘があり、その上を線路が走っていたこととなります。

さあ、皆さんも古地図を片手に江戸時代にタイムスリップしてみませんか？きっと新しい発見があります！健脚コースですが人気があり、すぐに定員に達するため、希望者には別の日にも対応しています。（脇）

市制 100 周年記念てくてくウォーク「大正期の地図を片手に、先人の道をたどる」

市制 100 周年を記念して、てくてくウォークを開催します。実施期間は来年（令和 3 年）4 月～11 月の第 4 日曜日です。まずは、全 6 回のプログラムを紹介いたします。



- ◆4/25「役場は上宇部からお引越し」琴崎八幡宮から市役所へ当時のルートを歩く（約 4.5 km）
- ◆5/23「100 年前の海岸線と沖ノ山とは？」沖ノ山炭鉱から東見初炭鉱への幹線道を歩く（約 4 km）
- ◆6/27「新川を境に宇部は西区と東区」大正モダンの緑橋と錦橋、ライオン狛犬のなぞを解く（約 5 km）
- ◆9/26「常盤通りから大正期の道を常盤公園へ」国道 190 号線がなかった 100 年前、小郡方面への当時のメインの通りは？（約 5.5 km）
- ◆10/24「100 年前の海岸線と沖ノ山とは？」沖ノ山炭鉱から東見初炭鉱への幹線道を歩く（約 4 km）
- ◆11/28「役場は上宇部からお引越し」琴崎八幡宮から市役所へ当時のルートを歩く（約 4.5 km）

まち歩き予定表

日	企画名	集合場所	内容
1月10日	古地図を片手にまちを歩こう	JR 宇部新川駅前	9：20～12：40 小串コース
1月24日	てくてくまち歩き（バス利用）	JR 宇部新川駅バス停	8：00～11：00 北向地藏尊大祭、飛上り地藏尊寒詣り
2月7日	古地図を片手にまちを歩こう	琴崎八幡宮バス停	9：50～12：00 上宇部東コース
2月14日	古地図を片手にまちを歩こう	JR 宇部新川駅前	9：20～12：40 小串コース
3月7日	古地図を片手にまちを歩こう	琴崎八幡宮バス停	9：50～12：00 上宇部西コース
3月14日	古地図を片手にまちを歩こう	JR 宇部新川駅前	9：20～12：40 小串コース
3月27日	てくてくまち歩き	ヒストリア宇部	9：50～12：00 桜の名所、真綿川公園他

■申し込み、お問い合わせ ※受付は開催日の一ヶ月前からです 定員は 20 名です（コロナ対策中につき）

てくてくまち歩き

古地図を片手にまちを歩こう

宇部市観光グローバル推進課 TEL(34)8353 FAX(22)6083

